

学校目標・経営方針	子どもたちが幸せな人生を送るために「行きたい学校」「行かせたい学校」「連携したい学校」「働きたい学校」
-----------	---

山梨県立かえで支援学校校長 荒川昌浩

本年度の重点目標	1 個に応じた指導を充実する
	2 保護者の本校に対する理解を深め、相互の連携を深める取組を推進する
	3 特別支援教育を推進する
	4 教員の働き方改革を推進する

達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	B 概ね達成できた。(6割以上)
	C 不十分である。(4割以上)
	D 達成できなかった。(4割以下)

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自己評価			年度末評価(2月1日現在)		
番号	評価項目	本年度の重点目標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	児童生徒一人一人のニーズに応じた教育活動を通して、自己肯定感を育み、持てる力を最大限に伸ばす。	「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を活用した適切な指導及び必要な支援の提供 「キャリアパスポート」による客観的な実態把握の促進 評価規準の明確化と「指導と評価の一体化」の推進	・活用及び提供状況 ・アンケートの実施 ・キャリアパスポート活用状況 ・評価項目の精選 ・アンケートの実施	B	・児童生徒数の増加が進む中、教務・主事連絡会での情報共有を充実させ、学部間連携や系統的な指導に更に努め、一貫性が保たれた学校運営を目指す。 ・各種計画やキャリアパスポート等の作成や活用をとおして、一人一人の教師の資質能力の向上を目指すと共に、教師の業務負担軽減を学校全体として組織的かつ計画的に取り組む。
2	保護者との信頼関係を構築し、児童生徒の教育に係る情報提供や情報交換を積極的に行う。	学校での教育活動について情報提供と説明責任を果たすことによる、保護者との信頼関係構築 「個別の教育支援計画」や通信表等を通じた保護者との情報共有及び連携 学校ホームページによる情報提供を通じた保護者との情報共有及び連携	・学部保護者会、家庭訪問、個別懇談、学部・学級だよりなどの実施状況 ・活用及び提供状況 ・アンケートの実施 ・活用及び提供状況 ・アンケートの実施	A	・日々の連絡帳や定期的な学年便りの発行、個別懇談や家庭訪問、関係者会議等の実施等、丁寧な保護者対応や関係機関と連携した家庭支援を実施する中で、信頼関係の構築に努めた。 ・保護者のマチコミ機能登録をサポートをすることにより、マチコミ登録件数を増やし、迅速かつ確実な情報発信の更なる充実を図り、教員の業務改善に努めることもできた。また、学校ホームページの充実を図り、積極的に学校の情報の周知に努めた。
3	特別支援教育に係る専門性の向上を図るとともに、地域の特別支援教育のセンターとしての役割を果たす。	自校教員の専門性の向上(特にASDに係る専門性) 地域ニーズに応じたセンター的機能の発揮	・各種研修会の開催 ・外部専門家の活用 ・実施状況 ・定期的な情報発信	A	・研究部を中心に、個々の教師が自らの興味関心に沿った縦割りグループ研究に取り組んだり、校内外の講師による研修の充実を図ったりすることで、特別支援教育に関する専門性の向上を図った。 ・通信を活用した支援地域への情報発信や教育相談についてのホームページの充実を図ることにより、センター的機能の充実を図った。 ・インクルーシブ教育の推進に向けて、教育相談や関係機関における学習会の実施等に取り組んだ。
4	教員の働き方改革を推進することにより、より効果的な教育活動を展開する。	教員の健康管理の推進 教員の私生活を充実させることによる教育実践の充実	・各種検診の情報提供と職員検診の実施状況 ・定時退校日、年休消化状況	A	・年度初めに職員に「学校における働き方改革」の重点的な取り組みを示すことにより、勤務時間への意識が高まり、勤務時間外在校時間数や土日・休日出勤の削減及び時差出勤の活用等、働き方改革を推進することができた。 ・空き時間や月2回定時退校日の設定、会議の精選や時間の短縮化に対して学校全体として意識して取り組むことにより、働きやすい職場環境を設定することができた。

学校関係者評価	
実施日(令和7年2月8日)	
評価	意見・要望等
3	・学校目標及び指導方針及び学校運営について賛同する。 ・校内を参観した際、児童生徒の増加に伴い、教室等の狭さを感じた。児童生徒が安心安全に学べるよう、掲示物や教材等、教室内の整理整頓を一層進め、学習環境を整えていく等、改善方法の模索が必要である。 ・教育課程は、学習指導要領に基づき、系統的に進めていくことが重要である。児童生徒の実態に応じた、学習内容の選定や星本等の活用が実践されている点が良いと感じた。
4	・保護者への情報提供手段としてマチコミが定着しつつある一方、Formsでのアンケート等の実施は、内容や回収状況によっては紙面アンケートの併用も必要ではないかと感じた。 ・全国的にPTA活動については課題とされている声もあるが、教育の充実やよりよい学校づくりを進めていく上では、PTA活動の継続が必要だと感じている。学校は、役員の選出人数や役割分担等工夫をし、保護者に対して活動への理解の促進を図っていく。
4	・特別支援学校や地域の小中学校の特別支援学級の児童生徒数が増加している中、インクルーシブ教育を推進していくために対策を講じていくことも必要だと感じる。また、コーディネーターの教員の負担も懸念されるため、コーディネーター業務の精選、インクルーシブ教育の推進の両面から取り組んでいくことが重要である。 ・授業参観の折、児童生徒の実態差が大きく、地域の学校に進学できた可能性が高いと思われる生徒もいるのではないかと感じた。環境要因が大きく影響し、愛着涉外由来のADHDなども増加してきている。 ・学校間交流については、特別活動だけでなく、教科交流やそれ以外の様々な形での交流も実践を増やしていけると良い。また、教授うち交流の充実も重要である。
4	・同僚性を大切に、意識的にコミュニケーションをとったり、グループづくり等工夫したりして、よりよい職場環境づくりに努めていくことが重要である。 ・時差出勤等柔軟な勤務体制や勤務時間管理の徹底を継続し、健康管理に努めていくことは、働きやすい職場づくりにおいて大変良い取り組みである。